

行政 視察報告

産業民教常任委員会

委員長 小林 政彦

委員会の



能登島観光協会の皆さんと一緒に

■視察の期日

令和7年11月6日～7日

■視察の場所

石川県七尾市、金沢市

■視察の目的

- ①七尾市災害プログラムについて
- ②石川県立図書館について

(1) 七尾市災害プログラム
について

■視察の概要

七尾市は石川県能登半島中央部に位置し、富山湾、七尾湾に面し、能登島を含む面積318・39Km²で年間を通じて降水量が多い地域です。

今回のプログラムでは、そこの七尾市の中でも七尾湾を塞ぐように位置する能登島を訪問し、令和6年能登半島地震の被害状況や復興の現状について学びました。

能登島は面積46・78Km²、周囲長71・9km、島内

20町、人口約2,300人、9

00世帯で漁業と観光業が主な産業です。和倉温泉や七尾街中方面につながる能登島大橋と奥能登方面につながるツインブリッジとの2本の橋により本土とつながっています。

2004年の市町村合併により七尾市となり、能登半島国立公園にも含まれます。

2024年の地震では、能登島で震度6強を観測し、特

に東側で大きな被害が発生。築50年以上の木造住宅では1階が潰れ、2階部分が残る倒壊が多く見られました。専門家によれば、これは「震度7と同程度の建物被害」と評価される倒れ方だそうです。

地震による地形の変化も大きく、七尾市は約30cm沈降した一方、輪島市は約4m隆起しました。このため、道路ではマンホールが突き出すなど、交通に大きな影響を及ぼしました。

地震直後はインフラが寸断され、水道や電気の復旧に時間がかかり、通信手段も途絶しました。

さらに、発災直後は橋の亀裂や通行止めで島が孤立しました。

2004年の地震では、地震の被害が「建物」だけでなく、「地面そのもの」にも及ぶため、復旧作業の難しさを痛感しました。



地元の漁師さんによる震災当時の話



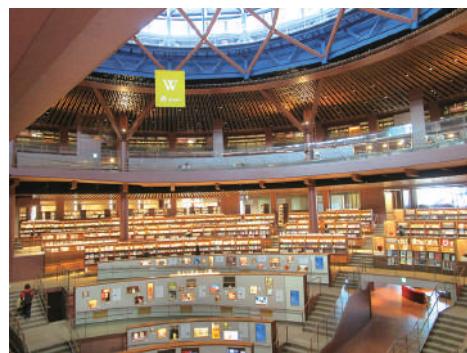
震災を受けた家屋

(2) 石川県立図書館について

石川県立図書館（愛称　百萬石ビブリオバウム）は、金沢市小立野に位置し、2022年に金沢大学工学部跡地に移転して新館として開館しました。前身は1912年に開館した「石川県勧業博物館図書室」です。

新館は地上4階・地下1階、延床面積22,720m²の広大な施設で、蔵書は約110万冊、そのうち30万冊は自由に閲覧できます。館内は「閲覧エリア」「文化交流エリア」「子どもエリア」に分かれ、飲食可能なエリアもあります。閲覧席は約500席あり、会話や携帯電話の使用も一部のエリアを除いて可能で、幅広い世代に利用しやすい環境が整っています。

図書検索機やセルフ貸出機、座席予約機をまとめた「セルフステーション」が各所に設置され、簡単に本の検索や貸出、座席の予約ができます。また、古書や貴重書まで検索できる「館内コレクション総合検索機」も整備されており、県立図書館としての機能が充実していました。



階層的なデザインで広々とした空間の図書館

利用カードは、県内在住・在勤・在学者だけでなく、東海北陸地区（富山・福井・岐阜・愛知・三重）の住民も作成可能で、広域的な利用が可能です。

能登半島地震の被災地を視察し、地域により被害の大きさや復旧の進み方が大きく異なることを改めて実感しました。能登島においても復興はまだ途上で、瓦屋根の修繕、使用できなくなつた倉庫の撤去、沈降した港の復旧など、多くの作業が今も続いていました。

■ 視察の結果

当村にも片品川左岸断層があり、いつ有事が起こつてもおかしくありません。村には優れた地域防災計画や毎年更新される防災マップがありますが、断水・停電・孤立といった事態を想定し、迅速に復旧・復興へつなげる体制づくりや、住民の安心につながる取り組みの検討が必要であると感じました。

また、石川県立図書館を視察して、県外からも利用者が訪れるほど魅力的な施設であることが分かりました。多様な分野の書籍がそろい、食事や散策も楽しめる空間は、一日中過ごすことができる「地域の学びと交流の拠点」として非常に参考になりました。

本村においても、尾瀬・丸沼・白根山・武尊山など片品村の資源に関する書籍や写真、資料を集め、村民だけでなく村外の方々も学べる図書館や交流スペースを整備できれば、地域理解の促進や観光振興にもつながると考えられます。また、片品村について説明できる人材が常駐するような施設を道の駅周辺に設けることでも、新たな可能性として期待できると感じました。



HAKUBA VALLEY TOURISM 事務局長と一緒に

行政 視察報告

総務観光常任委員会

委員長 星野 吉弥

■ 視察の期日

令和7年11月20日～21日

■ 視察の場所

長野県 下高井郡山之内町
北安曇郡小谷村

■ 視察の目的

- ①竜王マウンテンリゾートの事業取り組みについて
- ②小谷村の少子高齢化、人口減少、後継者不足等の取り組みについて

■ 観察の概要

(1) 竜王マウンテンリゾートの事業取り組み

竜王マウンテンリゾートは、1961年に創設され、長野県の信州中野ICから16kmの距離に位置する、四季折々の楽しみが魅力のリゾート施設です。冬はスキー場として、夏は観光施設として通年営業しており、グランピング施設11ヶ所や、世界最大級の166人乗りロープウェイをはじめとする8基のリフトなど、多様な体験が可能です。

2024年シーズンには、冬季21.5万人、夏季6.6万人、年間合計28.1万人の来場者を迎えています。特にロープウェイ山頂（1,770m）からは、北アルプスの絶景を一望できるスポットとして人気で、5月から10月にかけては60%以上の確率で雲海を見ることができます。これに合わせて、螺旋階段の新設や星空ナイトシネマ、アートカフェなど、新たな企画も積極的に展開し、さらなる誘客を促進に努めているとの説明を受けました。



世界最大級の166人乗りゴンドラ

(2) 小谷村の少子高齢化・人口減少への取り組み

小谷村は長野県の北西部、新潟県との県境に位置し、「中部山岳国立公園」と「妙高戸隠連山国立公園」の二つの国立公園を有する自然豊かな山間地域であり、当村とは観光協定を結んでいる村です。昭和55年当時の人口は5,085人だったのが、2023年3月時点では2,621人に減少しています。一方で、近年はコロナ禍以降、外国籍の定住者が増加し、令和7年3月時点での人口の約7.2%にあたる188名を占めるまでに至っています。

小谷村には3つのスキー場があり、冬期にはスタッフを含め、2,000人以上の季節労働者が増加し、地域の雇用創出にも貢献しています。さらに、2021年には「おた

また、「道の駅小谷／株式会社道の駅おたり」は、1999年に開業し、白馬エリアや新潟県境へのアクセス拠点として機能しています。地域物産の販売、レストラン、天然温泉「深山の湯」など、多面的なサービスを提供しており、登山客やスキーリ利用者の帰路における需要が高いことから、通年型集客として機能しています。

小谷村には3つのスキー場があり、冬期にはスタッフを含め、2,000人以上の季節労働者が増加し、地域の雇用創出にも貢献しています。さ

人口を2,187人と設定し、地域の発展を目指して、周辺の大町市、池田町、松川村、白馬村と連携を強化しています。共同で行っている行政サービスや事業を通じて、住民福祉の向上を図り、地域経済の活性化にも取り組んでいます。

地域経済活性化の新たな取り組みとして地域通過「アルプスペイ」を令和7年より（白馬村、小谷村）2村で導入され、住民サービスの向上及び地域内経済循環の強化が進められているとの説明を受けました。

また、「道の駅小谷／株式会社道の駅おたり」は、1999年に開業し、白馬エリアや新潟県境へのアクセス拠点として機能しています。地域物産の販売、レストラン、天然温泉「深山の湯」など、多面的なサービスを提供しており、登山客やスキーリ利用者の帰路における需要が高いことから、通年型集客として機能しています。

今後も住宅環境の改善や整備支援を目指すべき方向として進めいくとのことであり、当村住宅支援要綱と比較すると恵まれた条件にあると感じ、今後当村においても住宅支援制度の在り方について、交付要綱等の見直しの必要性を感じました。

■ 観察の結果

竜王マウンテンリゾートについては、運営を担当している日本スキー場開発株式会社は、当村のオグナスキー場も手掛けており、職員が積極的にアイデアを出し合い、リゾートの運営を盛り上げていることが伺えました。この姿勢を見習い、オグナスキー場や武尊牧場の施設運営においても、村当局との連携を深め、継続的な取り組みに邁進していくだけだと強く感じました。



小谷村議長による説明



雲海や山々の景観を楽しめる
竜王マウンテンリゾートの螺旋階段

り地域づくり協同組合」が設立され安心して働く環境づくりを進めています。

また、小谷村については、近年入客の伸び悩み・住民の高齢化・後継者不足といった課題は、当村と類似していますが、地域ぐるみで移住定住促進を進め新築住宅200万円・中古住宅120万円の購入費・改修費の補助を行い、現在小学校児童約100名のうち移住による児童が36名と少なからずイターンにより結果が見え始めています。

今後も住宅環境の改善や整備支援を目指すべき方向として進めいくとのことであり、当村住宅支援要綱と比較すると恵まれた条件にあると感じ、今後当村においても住宅支援制度の在り方について、交付要綱等の見直しの必要性を感じました。

また、小谷村については、近年入客の伸び悩み・住民の高齢化・後継者不足といった課題は、当村と類似していますが、地域ぐるみで移住定住促進を進め新築住宅200万円・中古住宅120万円の購入費・改修費の補助を行い、現在小学校児童約100名のうち移住による児童が36名と少なからずイターンにより結果が見え始めています。

今後も住宅環境の改善や整備支援を目指すべき方向として進めいくとのことであり、当村住宅支援要綱と比較すると恵まれた条件にあると感じ、今後当村においても住宅支援制度の在り方について、交付要綱等の見直しの必要性を感じました。



令和7年度 片品村 中学生議会

令和7年10月17日（金）令和7年度片品村中学生議会が役場2階議場で開催され、23名の生徒が議員となり活発な提案をしていただきました。

議会終了後、生徒に「中学生議会を通して考えたこと、これから生き方、片品村への関わり」について、各自の思いを書いていただきましたので紹介します。

私は、0歳児から預けることができる託児所の設置について提案しました。私のお母さんは仕事と家事を両立させることができたと話していました。

たことのなかつた片品村の将来の姿を想像しながら、どんなことをするのが正解なのか模索することは容易ではなかつたけれど、私たちの提案が片品村の今後に活用されなければいいなと思いました。今回の中学生議会は私たちにとって考え方を改めるといい機会だつたと思います。片品村が今後どのようにして、進化あるいは変化していくのか今までのよう、他人事ではなく自分自身で考えて行動していきたいです。

私は0歳から入れる託児所について提案しました。

援でもつと何ができるかを考えました。あまり目を向けないと、この
ので、今どんな支援を片品
村がしているのか、育児をして
いる保護者は、どう思つて
いるのか全然知らず、どんな
提案をしたらしいかわからず

私は0歳児から入れる託児所について提案しました。これから片品のために私たちに何ができるかを考えたときに、少子化問題に目を向け、育児のことで対策や、支援でもつと何ができるかを考えました。

ろがあります。もつと沢山の人に知つてもらえたなら嬉しいなと議会を通して思えるようになりました。

片品のことをまじめに話すことはなかつたから新しい体験ですごく楽しかつたです。ありがとうございました。

中学生議会の準備をしてくれるに、片品で子育てをする人たちが体験する苦労が少しでも減り、一度しかないお子さんとの時間が楽しい思い出でいっぱいにしてほしいと思うようになりました。それから、片品のことを好きだなど気づきました。片品は少し不便なところはありますが、「自然の四季が美しい」「野菜が美味しい」「スノーボードもできる」など沢山のいいところ

たり、他の意見を聞いたりすることと、自分も社会の一員として関わっているという実感が湧きました。普段は教室の中の活動として終わることが、議場という少しフォーマルな場で、自分の意見や質問を投げかけることができたの

私は0歳から入れる託児所について提案しました。初めて中学生議会に参加して、たくさんの経験ができました。9月から毎日のようになにか議会の準備をしました。当日うまくできるか心配だつたですが、きちんと練習どおりにできて良かったです。議会という場で意見を出したり、他の意見を聞いたりすることで、自分も社会の一員

私は0歳から預けられる託児所について提案しました。何を提案するか考えたときには0歳からでも預けられる託児所があつたらいいのではないかと思いました。今はもう使わなくなつた保育園などをとにかくに使えないかなと思いつき、子供を預けられる場所があれば子育てをしやすくなる

ではないかとみんなで考えました。片品村では保育園が1つになつてしまつて使わなければ再利用できればいいのではなかなと思いました。その託児所を運営するにあたつてどのように伝えたらわかりやすくなるのかなど、考えるのはとても難しかつたです。でも緊張したけど議会で発表ができて良かつたです。



社会の授業で議会について勉強をしていましたが、実際に議会をしている場所に行つてみて、すごいところだなと思いました。議会をどのようになっていてるのか知ることができてとても勉強になりました。

私は観光について提案しました。議会が始まるまでは緊張をだん緊張がほぐれていき緊張がなくなりました。

私は観光について提案しました。中学生議会ではとても有意義な時間を過ごすことができました。

私は観光について提案しました。中学生議会のため過疎化や風化防止のためにグループの仲間と一緒に何週間も前から調べたりまとめたりして頑張りました。片品のために深く考え、より郷土への愛が強まつたことを感じました。

議会の部屋はとても莊厳で空気感がほかの場所とは違つており、その重要性を感じられました。今までの事業の話や答弁もとても心に響いて、村長さん、議員の皆さんが私たちや片品の未来について本気で考えてくださつていてよくな気がしてとても嬉しかつたです。

私はこの議会で学んだことがたくさんあります。

私はこの議会で学んだことがたくさんありました。

私は「業務用ネット注文施設の導入」について提案しました。何を提案するか決めるとき、片品村の特徴をあげてみたところ、スキー場や尾瀬などの観光地があり、観光客のために宿泊施設が多くあることに気付きました。そこで、片品村の宿泊施設をより良くするために方法について考えようになりました。村長さん



中学生議会では課題に対し、どのようにするかを学べました。また、発表の仕方な

ども学ぶことができました。大変勉強になりました。

私はコスプレイベントについて提案しました。

この中学生議会で政治のあり方について理解することはできました。授業の一貫ではありました、が、私達の住んでる片品村をより良くするために、私たちが考え提案をするのが良いのかなど、これから片品村を考えることは、とても難しかつたです。ですが、他の県や地域の政策などを事例をたくさん知ることで、提案についてだけでなく、その政策の影響でどのようなことが起こるのかなどの未来への影響を考えることもできるようになりました。村長さん

からの答弁もあり、現実的な回答も受けることができ、今後の提案で活かすことができるようにもなりました。

このような貴重な体験を通して私は、片品村で過ごす未満の18歳になつたときは、今の状況をしっかりと理解して選挙に行きたいと思いました。

2つ目は聞く力です。私は他の班の発表や村長の発表をずっと聞いていてその議会のテーマも取り入れてほしいなと思ったこともあります。

3つ目は話す力です。私はこの議会で、話す力を身につけました。この議会では将来のことを考えた議会だ

とと思いました。

私は業務用ネット注文施設の導入について提案しました。何を提案するか決めるとき、片品村の特徴をあげてみたところ、スキー場や尾瀬などの観光地があり、観光客のために宿泊施設が多くあることに気付きました。そこで、片品村の宿泊施設をより良くするために方法について考えようと思い、私の家も旅館をやつてるので、何が大変なのかなど色々聞いてみました。

すると、片品村にはスーパーや一つしかなく、多人数のお客さんがいるときには遠くまで買い出しに行かなくてはならないことが大変だとわかれました。ならば大きなスーパーを作ればいいと思いまし。が、建物を作るのに多くの費用がかかるし、宿泊施設にお客様がいないうとき、売上が激減してしまう、そしてそこで働く人を雇わな

私は公共施設等の活用について提案しました。

実際に片品村の議会に参加させていただき、質問をさせてもいました。答弁にて村長さんから僕たちの質問に対して賛成の意見やご指摘をもらいました。このことから自分たちの質問のわかりやすさや内容を見直すことができ、それ以外にも片品村で実現可能なものの、不可能なものも知ることができました。

また、議長さんをはじめとする他の皆様も、意見を聞くことはできませんでしたが、真剣に僕達の質問を聞いていたただくことができました。僕は将来片品村を出ていくと思います。しかし片品村をより良くしようとする皆様の姿勢はかつてよく、片品のことをこんなにも深く考えていただいていたのだ、と感銘を受けました。また片品村に帰郷したとき、今までよりも更にさらによい村になつていると思います。

本当に貴重な経験を得ることができました。ありがとうございました。

私は公共施設等の有効活用について提案しました。初めて中学生議会で提案をしました。とても緊張しました。

たが、他の班の提案や村長さんの答弁を聞いて共感することができました。提案を考える前は地域の課題を他人事のように感じていましたが、自分たちにもできることがあると気づきました。

また、議会を通して「話し合うことの大切さ」も学びました。意見が違つても、互いに尊重しながら考えを深めていくことで、新しい視点やアイデアが生まれることを実感しました。これは学校生活だけでなく、将来社会に出たときにも必要な力だと思います。

この経験を通して、私は「地域の未来は自分たちの手にかかる」という意識を持つようになりました。これらは、自分にできることを少しずつ行動に移していくいとします。そして、将来どこで暮らすことになつても、地域を大切に思い、関わっていき姿勢を忘れずにいたいです。

できる仕組みがなかつたからです。私自身無理なことを言つているという自覚があり、どのように答弁されるかとても気になっていました。そのため無理と言われるのではなく無理でも今後、実現されるとも思いました。

今は無理でも今後、実現されるとも思いました。いい体験をすることや政治の勉強ができるかもしれません。

私は将来片品村に残るかもしれません、この議会で提案した経験を活かして生活していくかと思います。

私は将来片品村に残るかもしれません、この議会で提案した経験を活かして生活していくかと思います。

私は将来片品村に残るかもしれません、この議会で提案した経験を活かして生活していくかと思います。

ができて良かつたです。
政治にあまり興味がわかなつたけど、議会に行つて少し興味を持つことができました。さらに政治のことを知りたいと思いました。いい体験をすることや政治の勉強ができます。

私は片品村に住んでいる高齢者の方の割合に目を向け、高齢者の方のための医療について考えました。片品村をよ

り良くするための案をグループの人と協力しながら一からなぜ私が公共施設を提案しようと思ったかというと体育馆がいっぱいあるのに使わないのはもつたいないと思つたからです。そして、勉強スペークスがないからあるといな

内容は、高齢者の「孤独死」を防ぐための「近所の人たちでの見回り」や、外に出ることが厳しい人のための「オンライン診察」、そして「地域交流を盛んにする」ために、高齢者の方が気軽に参加できるイベントの回数を増やすことについて提案をしました。結果的に、最初に問しては、もう別の方法で確認していたり、オンラインは機材の用意が厳しかつたりして断念しました。

あまり経験できないことを経験することができて良かつたです。実際に議場に立つと凄く緊張して学校で練習していたことがあまり上手くいかなかつたけど、いい提案ができて良かったです。社会の授業で習つてどういう感じなのでろうと気になつていたので議会はこんな感じと知ること

私は高齢者に対する医療との関わりについて提案しました。議会の場に参加するのは初めてで、いざ立つてみるととても緊張したけど自分たちの案を言うことができてよかったです。

私は片品村に住んでいる高齢者の方の割合に目を向け、高齢者の方のための医療について考えました。片品村をよ

り良くするための案をグループの人と協力しながら一からなぜ私が公共施設を提案しようと思ったかというと体育馆がいっぱいあるのに使わないのはもつたいないと思つたからです。そして、勉強スペークスがないからあるといな

力向上するため私もいろいろと考えていくかと思います。

この議会を終えて、提案ごとを考えて実行させるまでには時間がかかり、尚且つ、調べ不足であるとすでに実行されているものなどもあり、変えることはとても難しいものだと実感しました。これからも、片品村を良くするために考えて行きたいと思いました。



話のたね

利根沼田獣友会片品支部
(片品村獣友会)

◆農林漁業及び村民の生活を守る◆



ハンターの実情と課題

片品村における農林業被害は、令和6年度で6,278千円となり、前年比120%となつておられます。有害鳥獣による被害により、農業意欲の低下や耕作放棄地、離農者の増加を引き起こす懸念があります。



イノシシによる掘り起こし



センサーカメラに写るシカ

事故の防止、マナー向上や担い手の育成、野生鳥獣の保護管理などを行っています。また、昨今の農林業被害や住宅地への侵入による人員被害の恐れ、尾瀬国立公園内での高山植物の食害などを防止するため、通年で捕獲事業や射撃技術向上等の訓練を実施しています。

村内における令和6年度の捕獲数(各種事業全体)は、二ホンジカ809頭・イノシシ114頭・二ホンザル15頭・ツキノワグマ45頭で、群馬県内でも上位の捕獲数です。捕獲方法は銃器と罠を使用し、夏場等の獵期以外は、銃器での捕獲は安全性を考慮して、罠のみで行っています。罠での捕獲は、餌付けや見回りなど熟練した技術が求められる難しい作業です。

また近年では、住宅地への有害鳥獣の侵入により、全国的に死亡事故も発生しています。村内でも被害や目撃件数が増加し、生活への影響が深刻化しています。

利根沼田獣友会片品支部(以下片品村獣友会会員39名)は、狩猟を趣味とする団体で、狩猟

捕獲した個体は無駄にせず、シカ皮の製品活用やジビエとしての活用に入れています。



シカ皮の製品

(電話 581-2113)

シカ皮については、尾瀬国立公園から移動する個体を狙つて捕獲し、皮を剥いでなめし革へ加工し、群馬県内の特別支援学校の事業の一環として製品化されており、道の駅尾瀬かたしなで販売されています。

令和7年8月から、群馬県内の指定施設で放射能基準を下回る個体は、ジビエとして利用可能となり、片品村内で捕獲された個体は「尾瀬ジビエ」として出荷されています。

獣友会員の減少と高齢化は全国でも大きな問題となつております。今後数年間で捕獲数が大きく減少する可能性があります。捕獲数の減少は農林業被害や人身事故の増加に繋がる恐れがあるため、銃器等の取得に対する補助や技術向上支援を行っています。

自分の農地を自ら守りたい、地域貢献として従事したい、射撃・狩猟に興味がある方は、役場農林建設課内の事務局までお問い合わせください。

Welcome ゆう けん しゃ ようこそ 有 権 者

「若者の声を消さないために」
群馬県立尾瀬高等学校 普通科 3年1組 金子 瑠那さん



最近、若い人の投票率が低いという話をよく見聞きする。自分も前まではその理由がわから気がしていた。投票しても何も変わらないと思っていた。

しかし、日々の生活を振り返ってみると政治は身近な存在だと思うようになつた。

物価の上昇で欲しいものを我慢したり、進路についても不安を感じることがあつた。それらは全て国や自治体の政策と深く結びついている。政治は私たちの生活の土台を作つてゐるものなのだ。

投票しないことも一つの選択肢だと言う人もいる。しかし私は、投票しないという選択は考えることをやめる選択でもあると思つ。

その結果、声を上げている一部の人の考え方だけが政治に反映されてしまう。

たとえ自分が候補者や政党を支持出来なくて、より納得できる選択肢を選ぶことには意味がある。

自分の1票で社会が劇的に変ることはないくともしかれない。それでも、その1票1票の積み重ねが今の社会を作っている。もし、多くの若者が政治にいて無関心であり続ければ若者の意見は、存在しないものとして扱われてしまうだろう。

有権者になるということは権利であると同時に責任もあると思う。自分も、政治に対しての知識を持つことはなくとも自分なりに考えて選択する姿勢を大事にしたい。無関心でいるのではなく、社会の一員として意見を持つ有権者でありたいと

総務観光・産業民教常任委員会

村内要望箇所現地視察

昨年に引き続き、村内各行政区で特に緊急性のある箇所について、12月8日に各行政区の代表者と片品村議会議員全員が出席して現地視察を行いました。視察後に報告会を行い、結果を集計し、要望箇所の早期着手を求めた要望書を令和7年12月23日に高山議長及び萩原副議長から梅澤村長に提出しました。



○傍聴のお知らせ

3月議会を傍聴しませんか！

次回定例会は、3月5日(木)の予定です。

一般質問は、開会初日です。一般質問の質疑応答は片品村公式ホームページ(HP)の議会録画中継にて動画を閲覧できます。

★スマートフォンでもご覧いただけます。
QRコードを読み込んでください。



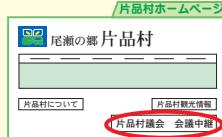
○議会録画中継について

年4回の定例議会開会日の模様を動画（録画）配信していますので、是非ご覧ください。

- ①片品村ホームページトップ画面右側のバナー
「片品村議会 会議中継」をクリック

視聴方法
☆携帯電話でもご覧いただけます。

- ②「会議名でさがす」「議員名でさがす」どちらかをクリック
- ▶会議名でさがす ▶議員名でさがす
どちらかをクリック！



議会活動日誌

10月	25日 峻嶺祭（文化祭） 27日 村長当選証書付与式 28~30日 利根郡町村議會議長会県外研修視察 3日 令和7年度かわば花火大会及び懇談会 4日 小口資金融資斡旋審査委員会 5日 群馬県町村議會議員研修会 8日 尾瀬かたしな秋の収穫感謝祭 12~13日 町村議會議長全国大会 " 群馬県町村議會議長会臨時総会 " 群馬県関係国会議員と町村議會議長との意見交換・懇談会 17日 11月定例利根郡議長会 " 利根沼田学校組合議員協議会 " 広域圏11月定例議員協議会 " 県立高校の在り方に関する情報交換会 18日 桜花苑理事会 20日 戸倉ダム建設促進期成同盟会総会・要望活動 20~21日 総務観光常任委員会行政視察 25日 広域圏11月議会定例会 26日 議会運営委員会 " 全員協議会 " 第2回総合計画についての説明 28日 利根東部衛生施設組合議会全員協議会 " 利根東部衛生施設組合議会定例会 " 片品村行政懇談会 1日 新民生児童委員嘱託交付式 3日 第10回尾瀬かたしな未来構想委員会 4日 社会福祉協議会 第3回理事会 " 片品村共同募金委員会運営委員会
11月	17日 11月定例利根郡議長会 " 利根沼田学校組合議員協議会 " 広域圏11月定例議員協議会 " 県立高校の在り方に関する情報交換会 18日 桜花苑理事会 20日 戸倉ダム建設促進期成同盟会総会・要望活動 20~21日 総務観光常任委員会行政視察 25日 広域圏11月議会定例会 26日 議会運営委員会 " 全員協議会 " 第2回総合計画についての説明 28日 利根東部衛生施設組合議会全員協議会 " 利根東部衛生施設組合議会定例会 " 片品村行政懇談会 1日 新民生児童委員嘱託交付式 3日 第10回尾瀬かたしな未来構想委員会 4日 社会福祉協議会 第3回理事会 " 片品村共同募金委員会運営委員会
12月	1日 新民生児童委員嘱託交付式 3日 第10回尾瀬かたしな未来構想委員会 4日 社会福祉協議会 第3回理事会 " 片品村共同募金委員会運営委員会

12月	5日 片品村降雪安全祈願祭 " 第6回議会定例会開会 " 全員協議会（補正予算説明） " 鎌田エリア再整備について議会検討会 8日 令和7年度地区要望箇所現地視察 9日 第5次片品村総合計画審査委員会 10日 総務観光常任委員会 " 産業民教常任委員会 11日 オグナほたか安全祈願祭 12日 議会運営委員会 " 議会定例会閉会 " 尾瀬岩鞍リゾート降雪安全祈願祭 " 議会広報編集委員会 16日 国道120号中央要望活動 17日 片品村「今残したい片品の景観」写真コンテスト審査 " 片品村スキー場連絡協議会・片品村民宿旅館組合連合会 " 合同情報交換会 18日 片品スキー学校開校式 20日 スノーパーク尾瀬戸倉安全祈願祭 23日 小口資金融資斡旋審査委員会 " 村長へ区要望箇所現地視察要望書及び報告書の提出 6日 令和8年群馬県議会新春交流会 " 上毛新聞社新年交歓会 7日 令和8年片品村消防団出初式 " 第35回片品村賀詞交歓会 9日 スキー場オーナーとの写真撮影 11日 第78回片品村二十歳を祝う会 19日 1月定例利根郡議長会 " 広域圏1月定例議員協議会 " 令和8年新年懇話会 23日 2026 FM OZE 賀詞交歓会
1月	6日 令和8年群馬県議会新春交流会 " 上毛新聞社新年交歓会 7日 令和8年片品村消防団出初式 " 第35回片品村賀詞交歓会 9日 スキー場オーナーとの写真撮影 11日 第78回片品村二十歳を祝う会 19日 1月定例利根郡議長会 " 広域圏1月定例議員協議会 " 令和8年新年懇話会 23日 2026 FM OZE 賀詞交歓会



議会広報編集特別委員会

委員長	萩原 正信
副委員長	星野 栄二
委 員	飯塚 美明
委 員	高山 悅夫
委 員	後藤 真平
委 員	北澤 佳子

編集委員長 萩原 正信

期間の変化、そして人間の生活圏拡大による生息地の減少が挙げられるそうです。幸いにして、片品村では大きな被害はないようですが、本年は、大きな災害等もなく、輝かしい年となることを願い編集後記とします。

新年あけましておめでとうございます。
昨年は、村長選挙が行われ、梅澤村長3期目がスタートしました。これまでの取組をさらに前進させて、「小さくても輝く村づくり」に邁進しますとしています。議会としては、梅澤村長3期目の取組をしっかりと見守っていくことが必要だと思います。また、昨年の漢字は、「熊」となりましたが、全国では、熊による被害者数が230人、死亡者が13人となっています。

この熊が増えている主な理由として、ブナやミズナラの凶作による食糧不足、地球温暖化による冬眠

